

深イ〜話!

No.34

3月11日の大震災で被災された、気仙沼市立階上^{はしかみ}中学校の、卒業式の答辞が全国的に感動を呼んでいます。You Tube で動画が何度も UP されるのですが NHK がすぐ削除するようです。

本日は、未曾有の大震災の傷も癒えない最中、わたくしたちの為に卒業式を挙げていただきありがとうございます。ちょうど、十日前の三月十二日、春を思わせる暖かな日でした。わたくしたちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通いなれたこの学舎を、五十七名揃って巣立つ筈でした。

前日の十一日。一足早く渡された、思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式に、思いを馳せた友もいたことでしょう。

「東日本大震災」と名づけられる、天変地異が起こるとも知らずに...

階上(はしかみ)中学校といえば、「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていたわたくしたちでした。

しかし、自然の猛威の前には、人間の力はあまりにも無力で、わたくしたちから大切なものを、容赦なく奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。

辛くて、悔しくてたまりません。

時計の針は、十四時四十六分を指したままです。でも、時は確実に流れています。

生かされた者として、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには、大きすぎる代償でした。しかし、**苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの、わたくしたちの使命です。**

わたくしたちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、この地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。

先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いかにわたくしたちを思ってくれていたか、今になってよくわかります。

地域みなさん、これまで様々なご支援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしくお願い致します。お父さん、お母さん、家族の皆さん、これからわたくしたちが歩いていく姿を見守っててください。必ず、よき社会人になります。

わたくしは、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に本当に本当にありがとうございました。



平成二十三年三月二十二日

第六十四回卒業生代表

梶原裕太